

平成 28 年度  
運営状況に対する評価書

## 和歌山県立博物館評価(平成28年度事業評価用)

博物館長による評価	展覧会の質、および入館者数は経年的な努力により向上している。広報活動は、对学校については積極的に行われているが、民間企業を取りこむことも試みてよいのではないか。当館に限らず当県にとって重要課題である防災対策につき、飛散防止フィルム貼付完了は朗報であるが、そのほかの取り組みを行うこと、およびその予算化が望ましい。
評価部会による評価	少ない職員数にもかかわらず、おおむね良好な運営状態といえよう。今後の中長期的な事業の展望を意識しながら、博物館の活動について地道に広報し続ける必要がある。前年度からの課題の解決が進んでいない点については、引き続き改善のための努力をすべきである。

# 平成28年度 和歌山県立博物館評価様式

## 1. 資料収集・管理

博物館長による所見	当県にかかわる資料の収集を積極的に行っているところは評価でき、さらに購入予算の増加を継続的に求めるのが望ましい。災害等の緊急避難に備え、他館との役割分担を協議し、同時に収蔵庫の残容量を常に把握しておく必要がある。ガス燻蒸の代替方法につき、東文研や業者と情報交換をする。寄託品の修理が可能かどうかを検討する。
評価部会による所見	収蔵庫の残り収蔵容量をより正確に把握するとともに、資料寄託の基準を明らかにした上で、常設展示を充実するための寄託を計画的に行うべきである。修理すべき館蔵品をリストアップして、中長期的な計画のもとに作業を進めるようにする。

### ①資料収集

#### A. 資料収集方針に沿った資料の収集が行われたか。収集手続きは適正か。(1)

平成28年度目標	資料収集方針に沿って、適正に資料を収集する。美術資料選定委員会を1回開催する。
自己評価	資料の購入については、2月14日に美術資料選定委員会を開催し、購入の妥当性及び価格について判断を仰いだ上、購入手続きを行った(計7,130,000円)。資料の受贈及び受託については、資料収集方針に基づき、その都度担当学芸員が過去の実績や現況を慎重に判断した上で、寄贈・寄託を受けた。
課題・改善案	購入については、購入予算を維持し、とくに高野山・熊野関係の資料の充実をめざす。防犯・防災上の理由による資料の大規模受託に対する備えをしておく。

#### B. 購入・受贈・受託数は何件・何点か。(2)

平成28年度目標	新規購入・受贈・寄託件数・点数を把握する。収蔵庫別に、残り収蔵容量の把握を行う。
自己評価	28年度の購入資料は10件76点、寄贈資料は15件352点、新規寄託資料は117件313点であった。収蔵庫の収蔵率は、85～90%程度。
課題・改善案	収蔵庫の収蔵残容量を、収蔵パターンごとにより正確に把握し、併せて収納器具・棚の増設について検討する。

### ②資料保存

#### A. 資料の保存環境は適切か。(3)

平成28年度目標	資料の適切な保存環境を維持する。IPM手法の検討を行う。
自己評価	収蔵庫及び展示ケース内については、24時間空調で管理している。虫菌害を防ぐために、害虫トラップの設置・回収を1か月単位で行った。また、外来の資料は、収蔵庫に配架する前にガス燻蒸(エキヒューム)を行うとともに、展示室・一時保管庫・搬入口・書庫などの区画で、ガス燻蒸(ブンガノン)を行った。このほか、収蔵庫・展示ケース内の空気環境調査等を行った。
課題・改善案	掃除機等による収蔵庫内の清掃を励行する。虫菌害に関して、ガス燻蒸以外の防除手法についても研究する。節電の観点から、春秋の季節に空調機の間欠運転が可能か、検討する。

#### B. 資料の点検調査を行ったか。(4)

平成28年度目標	館蔵品の点検・在庫確認作業を行う。
自己評価	近年収集した資料を中心に、点検・在庫確認作業を行った。
課題・改善案	30年3月末が寄託資料の預かり証書の更新の時期にあたるため、それに合わせて寄託資料の現品・台帳・データベースと架蔵場所の確認・照合作業を行った。

#### C. 資料の修復は適切か。(5)

平成28年度目標	館蔵品を中心に、適切な資料の修復を行う。館蔵品・寄託品のうち、優先的に修理すべき資料のリストを作成する。
自己評価	館蔵品のうち、修理が必要なもの8件について、専門の業者による修理を行った。修理を優先する資料のリストは制作できなかった。
課題・改善案	館蔵品について、修理を要する資料のリストを作成する。なお、近年購入した資料の中で、修理が必要なものについて、優先順位を付けて修理を行う。

### ③資料管理

#### A. 収蔵点数は何件・何点か。(6)

平成28年度目標	収蔵資料全体の件数・点数を把握し、年度末に集計する。
自己評価	館蔵品は1,065件23,361点。寄託品は2,546件14,705点。(平成29年3月31日現在)
課題・改善案	年度末において、館蔵品・寄託品の件数・点数の集計を行う。

#### B. 資料の管理(台帳、データベース)は適切か。(7)

平成28年度目標	資料の管理を適切に行う。館蔵品・寄託品データベースの整序を行う。
自己評価	館蔵品は、館蔵品カードとエクセル形式のデータベース及びそれを出力した館蔵品台帳で管理している。寄託資料は、ファイルメーカー形式のデータベース及びそれを出力した寄託品台帳、預かり証書の写しを綴じた台帳で管理している。これらの台帳・データベースは、学芸課で一元管理している。
課題・改善案	データの整理とともに、データベースを管理しやすいような構造になるよう改善をはかる。

### ④資料の活用

#### A. 他機関へ資料を貸出ししているか。(8)

平成28年度目標	適切な管理・輸送が可能な博物館施設へ資料を貸出する。貸出基準の策定を検討する。
自己評価	資料貸出件数14機関78件134点(主な貸出先:東京都美術館・神戸市立博物館・広島県立美術館・彦根城博物館・佐賀県立九州陶磁文化館・和歌山市立博物館・黒川古文化研究所など)
課題・改善案	貸出にあたっての基準を明文化し、公表する必要がある。

#### B. 図書資料を収集し、研究や閲覧に供しているか。(9)

平成28年度目標	必要な図書資料を購入・受贈によって収集し、活用する。継続的な整理につとめる。
自己評価	28年度収集図書1,226点(うち購入65点)。すべて、図書台帳ファイルに入力済み。
課題・改善案	継続的にデータファイル及び書庫内書架・学習室書架の整理につとめる。

#### C. 資料のデータを公開しているか。(10)

平成28年度目標	最新の情報により、館蔵品の資料リストを当館ホームページ上で公開する。
自己評価	ホームページで館蔵品目録(一部画像付き)・学習室書架蔵図書目録を公開している。
課題・改善案	館蔵品・図書資料の収集にあわせて、最新の情報になるように更新する。画像データの公開も、将来的に可能になるよう準備作業を行う。

## 2. 調査・研究

博物館長による所見	調査研究とそれを展示に反映させるシステムは有効に機能している。また災害時の対処方法は、実際に発生した時を想定する事前訓練が必要である。防犯に向けてレプリカ作成等の取り組みは、今後さらなるレベルアップが望まれるが、他県の範となっているかに思われる。
評価部会による所見	引き続き、緊急の調査に対応できるような体制・協力関係を整備しておく。他方、研究職である学芸員が配置されている博物館として、継続的・戦略的に行う研究も必要であろう。

### ①調査

#### A. 調査件数。使命に基づいた調査研究を行っているか。(11)

平成28年度目標	使命に基づいた調査研究を行う。調査実績の把握・整理を行う。
自己評価	年間調査件数121件(展覧会関連資料調査・購入予定資料調査・依頼による調査)。
課題・改善案	成果・情報を共有するため、調査の概要を集積した実績記録・調査日報を作成する必要がある。

#### B. 外部機関・団体と共同した研究を行っているか。(12)

平成28年度目標	共同調査を行う。文化財の防災・防犯・保全などに関する調査は、積極的に関与する。
自己評価	「災害の記憶」に関する資料の調査・大森寺緊急調査(文化庁補助金・県教委・文書館ほか)、「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立」(科研費・神戸大学)、「文化遺産防災シミュレーション調査」(奈良文化財研究所)、和歌山県北部地域所在中世史料の調査・研究(東京大学史料編纂所)
課題・改善案	和歌山県ゆかりの文化財について、計画的な調査だけでなく、緊急性のある調査にも柔軟に対応できるようにする。

② 研究成果の活用

A. 展示・教育普及活動等に成果が反映されているか。(13)

平成28年度目標	研究の成果を博物館の事業(展示・収集等)に反映させる。調査の成果であることをアピールする。調査概要の記録を集積する方法を確立する。
自己評価	特別展・企画展の展示において、研究成果を反映させた。
課題・改善案	展覧会が研究の成果によるものであることを、積極的にアピールする。

B. 学術的公表(館研究紀要・報告書・学会誌等)がなされているか。(14)

平成28年度目標	様々な機会を利用して、学術的公表(当館研究紀要・報告書・学会誌等)を行う。
自己評価	『和歌山県立博物館研究紀要』第23号や、展覧会図録等の中で、調査成果を公開した。
課題・改善案	さまざまな機会により、研究成果の積極的な公開につとめる。

3. 展示

博物館長による所見	特別展・企画展は当県文化の紹介を十全に果たしている。常設展については、パネル、映像、古いレプリカ等をリニューアルする時期にさしかかっている。飛散防止フィルムの貼付完了は災害時来客者の被害防止に役立つ。来館者を含めた避難訓練を行う必要があるのではないか。
評価部会による所見	長期的・戦略的な視点で行う展覧会の位置づけを、より明らかにすべきである。常設展示におけるレプリカ・パネル等を更新できるよう計画の策定を行う。2階のスペースを、市民・学校が学習成果発表の場として利用・活用できることを、より広報すべきではないか。

① 常設展

A. 展示更新回数。計画的な展示替が行われているか。(15)

平成28年度目標	2回、おもに実物資料の劣化防止につとめる。レプリカ・模型・パネル類の劣化・破損状況を把握・整理する。
自己評価	秋の特別展終了後の常設展復旧作業の際と年度末に、展示資料の点検及び一部資料の展示替えを行った。タッチパネルモニターと音声ガイド機の老朽化に対応するために、来館者所有の携帯端末も利用できるタブレット端末を利用した情報解説システムを開発した。
課題・改善案	実物資料については、劣化防止のため、定期的に展示替えを実施する。レプリカ・模型・パネル等の補修・更新を行うための計画を策定する。

B. 計画的な保守・管理が行われているか。(16)

平成28年度目標	映像装置・扉類を中心に、計画的な保守・管理を行う。飛散防止フィルム未施工箇所施工する。老朽化したタッチパネルモニターによる解説システムの見直し・改善を行う。
自己評価	常設展示室壁付きケースの1列分に、飛散防止フィルムを貼り、展示室全体の施工が完了した。
課題・改善案	従来通り、映像装置を中心に保守・管理作業をおこなう。

② 特別展・企画展

A. 展覧会のコンセプトは妥当か。(17)

平成28年度目標	来館者の要望や地域バランスも参考にしながら、当館の使命によるコンセプトに基づいて展覧会を開催する。特別展は、「わたしたちのたからもの」「戦乱の世から泰平の世へ」「蘆雪潑刺」の3本を行う。
自己評価	特別展・企画展のいずれも、和歌山県ゆかりの文化財をテーマとし、文化財の保存についての認識を深めたり、鑑賞の仕方をわかりやすく伝えるということを主眼においた。特別展「戦乱の世から泰平の世へ」は大河ドラマとの関連を意識して企画し、特別展「蘆雪潑刺」は草堂寺本堂再建230年の記念の年の開催であった。また企画展は、日本遺産登録申請中の地域・重要文化財の修理完了・購入資料の初公開などというホットなテーマで開催した。夏休みは、従来通り、小中学生を主対象として、広報・展示計画・関連イベントを実施した。
課題・改善案	調査研究の進捗状況や周年記念の行事などに合わせて、和歌山県ゆかりの文化財を基本テーマとして、展覧会を開催する。

B. 展示の構成・展示手法はどうか。(18)

平成28年度目標	来館者の要望などをふまえ、適切な展示の構成・展示手法をとる。
自己評価	特別展・企画展のいずれも、展示構成を明らかにするために、いくつかのコーナーに分けて、展示を構成した。サブキャプション・「かんたん解説」や展示クイズなど、解説を補足するためのアイテムも、適宜制作した。
課題・改善案	来館者などからの反応・意見なども参考にして、より良い展示手法の検討を行う。

C. 図録・パンフレット等を制作したか。(19)

平成28年度目標	秋の特別展(2本)について、それぞれ図録を制作する。
自己評価	2本の特別展については、それぞれ展示資料をすべて収録した展覧会図録を予定通り発行した。企画展「有田川中流域の仏教文化」については、有田川町教育委員会の発行により、展覧会図録を制作した。
課題・改善案	特別展については、従前通り図録を制作する。必要に応じて、予算の範囲内で、その他の刊行物も発行する。一部の企画展でも、図録や小冊子を発行できるような方策を検討する。

D. 展示資料・来館者の安全は確保したか。(20)

平成28年度目標	展示資料・来館者の安全を確保する。地震対応について、さらに検討し、計画的に実施する。
自己評価	全ての展示資料は、展示ケース内に収納して、展示環境の保全と防犯に留意した。展示ケース内では、平均20～22℃・60%、150ルクスの環境を保持した。展示室内では、来館者の足元の明るさを確保するために、ダウンライトやスポットライトを活用した。行灯形ケースでは、免震台を使用した。展示室内での来館者の負傷等は、発生しなかった。
課題・改善案	展示資料の保全と鑑賞のしやすさの両立をはかる。地震に対する、資料・来館者の安全の確保について、より十分な対策を講じる。来館者の協力を得て、避難訓練を実施する。

E. 開催後の反響はあったか。(21)

平成28年度目標	開催後も反響が続くような展示を行う。
自己評価	特別展「戦国の世から泰平の世へ」は、大阪府南部地域に対して、今後の展示への期待を高めたという効果がうかがわれ、また特別展「蘆雪潑刺」については、展示の準備段階から資料所有者へ文化財保存の重要性を伝え、その認識が深まったように感じられた。
課題・改善案	展示後も、地域に残された文化財への関心・保全への取り組みが継続するよう協力する。

③ 館内小展示・出前展示

A. 何回企画を実施したか。要望はあったか。(22)

平成28年度目標	館内小展示(コーナー展示・特集展示等)を2回程度実施する。利用者のニーズの調査を行う。
自己評価	タイムリーな企画を柔軟に展示する場として、スポット展示「兼定の刀と安定の脇指」(7月20日～8月31日)・スポット展示「鹿児島県・日光神社の若い女面」(2月4日～3月5日)・ロビー展「さわって学ぶ仏像の基礎知識」(3月28日～6月4日(予定))の3本を文化財情報コーナー・エントランスホールで開催した。
課題・改善案	エントランスホールやギャラリーを、県民の学習の成果発表の場の空間として活用するため、出前展示と合わせて、県民・学校のニーズを調査する。

④ 入館者の傾向

A. 入館者の動向(年齢層・地域・情報入手手段等)を把握しているか。(23)

平成28年度目標	入館者の動向を把握する。アンケート回答率の増加(10～15%)をめざす。
自己評価	アンケート調査を通年実施し、特別展・企画展ごとに集計し、入館者の動向の変化を把握した。回答率8.6%。
課題・改善案	昨年度に比べると、回答率は増加したが、10～15%の回答率になるように工夫する。

B. 入館者が展示に満足しているか。(24)

平成28年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査)。「感想・意見」欄の要望に、可能な限り対応する。
自己評価	アンケート調査によると、満足度は、「大変良かった」・「良かった」を合わせて、89.3%(前年度88.7%)であった。
課題・改善案	「感想・意見」欄に記された事項のうち、是正すべきものは対応する。

#### 4. 教育普及

博物館長による所見	友の会活動は盛んである。ユニバーサルデザインの理念にもとづく展示(さわれる展示等)は、予算にもとづくようにすべきだろう。地域・学校との連携活動は積極的に行われているが、和歌山城との提携を考える必要がある。ボランティア活動は、導入した場合の業務量の増大を考えたくうえで慎重に検討する。
評価部会による所見	学校と連携した形で、文化庁補助金事業を継続していることは評価できる。中高生のクラブ活動や、学校関係の会議など、博物館を活用できる様々な機会があることを、学校関係者へより広報すべきであろう。

##### ①学校・団体の利用

###### A. 学校・団体の利用回数。(25)

平成28年度目標	55校
自己評価	利用回数は65校(前年度51校)。
課題・改善案	学校・クラス単位で利用しやすいような教材(ワークシート)の開発につとめる。特に歴史や文化財に関心を持っている高校生に対してアプローチをはかり、博物館への要望もさぐる。

###### B. 利用者数。(26)

平成28年度目標	2,000人
自己評価	利用者数は2,625人(前年度2,071人)。
課題・改善案	出前授業など、遠隔地の学校に対するサービスの手法について検討する。

###### C. 利用者が満足しているか。(27)

平成28年度目標	学校単位での利用時における、利用者の満足度を測定する手法を研究し、実施する。
自己評価	学校団体の利用後において、満足度調査を測定することができなかった。
課題・改善案	学校団体の利用時における、満足度や要望調査の手法を研究する。要望を把握する意味においても、学校に対する個別の広報活動が必要である。

##### ② 講演会・博物館講座

###### A. 講演会・博物館講座の回数。(28)

平成28年度目標	5回
自己評価	9回(特別展「わたしたちのたからもの」関連(講座1回)、特別展「戦乱の世から泰平の世へ」関連(講演会1回・講座1回)、特別展「蘆雪潑刺」(講演会1回・講座3回)、企画展「有田川中流域の仏教文化」関連(講座2回))
課題・改善案	同じテーマに関する連続的な講座は効果的であるので、他の行事とのバランスを取りながら実施する。

###### B. 講演会・博物館講座の参加者数。(29)

平成28年度目標	250人
自己評価	459人(特別展「わたしたちのたからもの」関連(2人)、特別展「戦乱の世から泰平の世へ」関連(172人)、特別展「蘆雪潑刺」(221人)、企画展「有田川中流域の仏教文化」関連(64人))
課題・改善案	参加者数の格差が大きい。開催の時期やテーマ、広報手段の検討が必要である。

###### C. 参加者が満足しているか。(30)

平成28年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査を行う)。
自己評価	7回分のアンケート調査を行った。おおむね80%以上、「大変良かった」「良かった」という反応であった。
課題・改善案	近隣の類縁施設の行事の日程と重複することが多いことが、アンケート上で指摘されている。日程設定の際には、注意しておく要素であろう。

③展示解説・体験学習・ワークショップ・見学会・関連行事等

A. 行事の回数。(31)

平成28年度目標	展示解説37回・体験学習2回・見学会1回・現地学習会2回
自己評価	特別展・企画展合わせて展示解説33回、体験学習8回、現地見学会2回、現地学習会2回
課題・改善案	現在の回数や規模をおおむね現状で維持する。

B. 行事の参加者数。(32)

平成28年度目標	展示解説600人・体験学習50人・見学会20人・現地学習会180人。行事の告知を充実させる。
自己評価	展示解説665人・体験学習123人・現地見学会71人・現地学習会169人
課題・改善案	現在の参加者数をおおむね現状で維持する。

C. 参加者が満足しているか。(33)

平成28年度目標	利用者の満足度を測定する。
自己評価	現地見学会(2回)・現地学習会(2回)および体験学習(1回)でアンケート調査を行った。おおむね80%以上、「大変良かった」「良かった」という反応であった。
課題・改善案	現在は展覧会のアンケート調査に包摂されているが、展示解説に関する満足度調査の手法について、検討する必要がある。

④県民との協業

A. ボランティア制度を導入しているか。(34)

平成28年度目標	現行のボランティア制度をより充実させる。博物館友の会との連携を検討する。
自己評価	県教委と和歌山大学教育学部の連携協定に基づく、学生ミュージアムボランティア制度により、今年度は3人が参加し(延べ15回)、資料調査補助や音声ガイドナレーションを行った。登録外の3名の学生が、「さわれるレプリカ」の着彩作業に従事した。
課題・改善案	大学と当館との連絡を密にして、継続して実施していく。「さわれるレプリカ」の着彩作業も正規のメニューにくわえて募集する。なお、一般向けのボランティア制度についても、内容や募集方法・受入体制を検討する。

B. 友の会・支援組織をつくっているか。(35)

平成28年度目標	友の会などの支援組織との協力関係を維持する。
自己評価	和歌山県立博物館友の会という任意団体が組織され、当館総務課内に事務局を置いている(会員数133人)。
課題・改善案	友の会の事業を支援するとともに、友の会からの人的支援(ボランティア)・経済的支援(図録等の出版補助)などの協力が得られるような環境を整備する。

C. 地域・学校等と連携した事業をおこなっているか。(36)

平成28年度目標	文化財の防災・防犯などを主眼において、地域・学校と連携した事業を行う。
自己評価	県内文化財の保全や被災時の救援活動を円滑に行うことを目的とした、和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議を運営した(加入機関数78)。和歌山工業高校・和歌山盲学校と連携した、「さわれるレプリカ」・点字図録制作を引き続き実施した。
課題・改善案	文化財の保全・防犯・防災、ユニバーサルデザインなどの観点を中心に、連携した活動を行う。

D. 観光資源として活用できる方策をとっているか。(37)

平成28年度目標	観光資源として活用できる方策をとる。和歌山城との連携の手法について研究・検討する。
自己評価	展示室内での写真撮影禁止を、原則撤廃した(7月20日～)。特別展のちらし・ポスター・年間展示計画を県内ホテル・旅行案内所・観光業者内へ送付(234件)。「道の駅」への送付も開始。
課題・改善案	市内類縁施設との相互案内・割引サービスの検討を行う。

⑤人材育成

A. 学芸員実習・インターンシップ・教員研修などを受け入れているか。(38)

平成28年度目標	学芸員実習・インターンシップ・教員研修などを受け入れる。
自己評価	学芸員実習受入人数8人、インターンシップ8校16人、教員研修(10年経験者研修2回21人、10年経験者研修社会体験研修1人)
課題・改善案	他の業務の支障にならない範囲で、従来通り積極的に受け入れる。



## 5. 広報・情報発信

博物館長による所見	和歌山城、市博物館との情報共有、連携協力を考えるべきだろう。JR、私鉄等へのポスター送付。TV和歌山の活用を考えてよいのではないかと。学芸員がもっと新聞、TV、ラジオへ登場する。
評価部会による所見	マスコミ・バス会社・ホテルなど、効果的な広報の足がかりとなる民間企業に対しては、より積極的に働きかけて、協力を得られるように努力すべきである。

### ①県民への直接的情報提供

#### A. 問い合わせ・質問(電話・来館等)へ対応しているか。件数。(39)

平成28年度目標	問い合わせ・質問(電話・来館等)へ対応する。重要なものについては、記録を作成する。
自己評価	地域の文化財情報を有する中核的施設として、996件の問い合わせ・質問などに対応した。
課題・改善案	対応の件数・内容を把握し、重要なものについては、記録を作り、情報の共有化をはかる。

### ②メディアへの情報発信

#### A. 掲載件数。メディアへの広報・情報活動は行っているか。(40)

平成28年度目標	メディアへの広報・情報活動を、より積極的に行う。
自己評価	報道機関への資料提供回数:12回・新聞(一般紙)への掲載件数:76回・コラム記事(『和歌山新報』):48回・テレビ・ラジオ番組への出演:10回
課題・改善案	メディアに対して、より積極的な情報提供につとめる。

### ③ホームページによる広報

#### A. アクセス件数・更新回数。(41)

平成28年度目標	年間閲覧回数:45,000カウント・更新回数:8回
自己評価	年間閲覧回数:47,720カウント・トップページ更新回数:8回、主要なミュージアム検索サイトに、当館の基本情報を掲載するとともに、展覧会情報をその都度更新した。
課題・改善案	情報提供のタイミングをはかりながら、適切に内容の更新を行う。

#### B. コンテンツ・デザイン等を工夫しているか。(42)

平成28年度目標	コンテンツ・デザイン等を工夫する。トップページのデザイン更新
自己評価	随時更新できる「博物館ニュース」(ブログ・ツイッター形式)により、当館の最新情報を双方向で提供している。
課題・改善案	トップページのデザインをはじめ、より見やすく、分かりやすい構造(多言語化を含む)になるように検討する。

### ④印刷物の制作

#### A. ポスター・チラシ・館だより・カレンダー等による情報提供・広報活動は行っているか。(43)

平成28年度目標	ポスター・チラシ・館だより・カレンダー等による情報提供・広報活動を行う。送付先・送付枚数等の検討を行う。
自己評価	特別展については、ポスター・チラシ(カラー)を制作し、各方面へ送付した。「戦国の世から泰平の世へ」(2,721件)、「蘆雪潑刺」(2,659件)、「東照宮の文化財Ⅱ」(2,689件)。企画展については、チラシ(単色刷)を制作し、館内で配布した。また、館だより・年間展覧会のご案内(カレンダー付き)・教員向けパンフレットは、春の特別展の広報物発送と同じ便で発送した(29年度分)。
課題・改善案	より効果的な配布先・配布枚数の検討を行う。

### ⑤協力活動

#### A. 他の団体・機関の活動に協力したか。(44)

平成28年度目標	他の団体・機関の活動に協力する。県立博物館施設4館の連携事業に、引き続き参加する。
自己評価	近代美術館と合同のバックヤードツアーを実施した。県立5施設の合同企画(節電キャンペーン・風土記まつり)に参加した。収蔵写真資料の外部への使用許可・貸出:106件528点、講演の依頼:11件、委員等の委嘱:9件、執筆依頼:6件、学習室の貸出:22件、収蔵資料の特別閲覧:20件
課題・改善案	県立博物館施設の連携事業には、引き続き参加する。当館の専門性を活かした依頼については、館の業務に差し支えない範囲で協力する。

## 6. 組織と運営

博物館長による所見	入館者数の目標は、展覧会の規模や内容を考慮したうえで設定し、実績につき充分説明ができるよう備えておく。常設展の考古部門の充実を考える必要がある。総務課と学芸課の連絡が密なのは評価できる。
評価部会による所見	歴史系総合博物館として、学芸員の専門分野(近現代史・文学史・考古学など)が欠落しているために実施できない展示などがある。組織や人員配置などの面で、可能な方策を検討すべきであろう。アンケートなどで来館者から指摘された点を、いかに対応・改善したかということ、開示することも必要なのではないか。

### ①組織・人員

#### A. 危機管理・防災体制についてマニュアルを作成、実地訓練等を行っているか。(45)

平成28年度目標	危機管理・防災体制についてマニュアルを作成し、実地訓練等を行う。
自己評価	防災マニュアルは整備されている。防災放送設備の改修に伴い、防災放送の実地訓練を行った。
課題・改善案	火災・地震等を想定した避難誘導訓練は、毎年実施する必要がある。来館者入館時に、訓練を実施できるか検討する。

#### B. 個人情報の保護・データ管理が適切に行われているか。(46)

平成28年度目標	個人情報の保護・データ管理を適切に行う。電子データの管理について、複数存在する館内ネットワークごとの取扱い基準を整理する。
自己評価	県の定めた基準に基づいて実施している。
課題・改善案	館内の複数のネットワーク・端末上の電子データについて、管理・取扱上の指針を定める。

#### C. 館内外の研修に対して、職員が参加できる体制がとられているか。研修参加の実績。(47)

平成28年度目標	館内外の研修に対して、職員が参加する。学芸員にとって必要な研修については、長期的な受講計画をたてる。
自己評価	県教委の全職員を対象とした人権研修に職員が参加した。また、新規採用2年目職員(学芸員)・新任副主査が県の所定の研修に参加した。
課題・改善案	文化財の取扱い・保存科学についての研修(文化庁・東京文化財研究所主催)を、全ての学芸員が受講できるような長期的な計画をたてる。

### ②県民の期待に応える運営

#### A. 利用者数:当該年度の利用者数は何人か。(48)

平成28年度目標	35,000人。年間利用者数の目標値をたてるための、設定根拠を整理・検討する。
自己評価	入館利用者数は36,922人(27年度33,428人、26年度34,171人)。特別展を3本開催したこと、テーマが時宜にかなっていたこと、興味を引く企画展であったことなどから、入館者数が増加した。
課題・改善案	入館者数の増減要因の分析が必要である。

#### B. 利用者の満足度、ニーズなどの調査を行っているか。(49)

平成28年度目標	利用者の満足度を測定する(アンケート調査を行う)。
自己評価	各展覧会・講演会・博物館講座・現地見学会・現地学習会で、アンケート調査を行った。
課題・改善案	学校団体の利用、展示解説など、意見・感想を把握できていないものが残されている。

#### C. 調査結果を反映した運営を行ったか。(50)

平成28年度目標	アンケートなどの調査結果を反映した運営を行う。寄せられた意見の集約・整理を行う。
自己評価	各展覧会・講演会・博物館講座・現地見学会・現地学習会で、アンケート調査を行った。
課題・改善案	利用者の意見に対して、いかに対応したのかを公開して、こうした調査の有効性を明らかにする。

### ③情報公開

#### A. 使命、目標、計画などの方針を公開しているか。(51)

平成28年度目標	使命、目標、計画などの方針を公開する(ホームページ等で公開する)。
自己評価	「博物館の使命」をホームページで公開している。
課題・改善案	当該年度評価様式(目標)を、早い段階で当館ホームページに掲載する。

B. 実績の検討や評価を行い、その結果を公開しているか。(52)

平成28年度目標	実績の検討や評価を行い、その結果を公開する(ホームページ・年報等で公開する)。
自己評価	9月にホームページ上で、27年度評価を公開した。『研究紀要』23号(3月発行)に収録された年報により、前年度(27年度)の実績を公開した。
課題・改善案	評価部会の総括をふまえ、年度のできるだけ早い段階で公開することが必要である。評価で示された問題点を解消するための、プロセスを確立するための検討を行う。

7. 施設・設備

博物館長による所見	陳列台、ケースの耐震・免震化を考えるべき時期に来ている。またカビは発生すると取り返しがつかなくなるので、このことも考えに入れておく必要がある。
評価部会による所見	寄託資料のデータをはじめとして、多くの個人情報管理する館内の端末やネットワークの運用や保守について、より高いレベルのセキュリティが必要であると思われる。

①施設設備の維持管理

A. 日常的な点検の有無、改修保全の実施、安全衛生の管理が行われているか。(53)

平成28年度目標	日常的な点検の有無、改修保全の実施、安全衛生の管理が行われている。
自己評価	館内の重要な設備(空調・電気・警備など)については、日常的に点検が行われている。また、来館者の利用する部分については、日常的に清掃がほどこされている。
課題・改善案	引き続き、従来の設備点検・保守管理・清掃を行う。

B. 施設・設備の改修・整備が行われたか。(54)

平成28年度目標	施設・設備の改修・整備を状況に応じて行う。
自己評価	屋上防鳩ネットの張り替え、屋外看板基台(一の橋)の修理、燻蒸設備(配電盤)の修理を行った。
課題・改善案	状況に応じて改修・整備を行うための予算(修繕料)を確保する。

C. 長期修繕計画を有しているか。(55)

平成28年度目標	長期修繕計画が実施に移せるよう、長期的戦略で予算の獲得をめざす。大規模な地震に対する安全性について再確認し、必要な措置を講ずる。
自己評価	空調機及び展示室照明の更新については、一定の見通しがついた。今後、3か年計画で実施に移されることが想定される。
課題・改善案	最新の博物館設備に関する動向や基準について、情報を把握して具体的な計画に反映させる。

②アメニティーの向上

A. バリアフリー対策、ユニバーサルデザイン等の対応が取られているか。(56)

平成28年度目標	「さわれるレプリカ」作りを継続する。館内外国語サインの充実を図るとともに、音声ガイド多言語化をめざす。
自己評価	平成22年度から、文化庁補助金により実施してきた「さわれるレプリカ」と「さわって読む図録」の制作事業を、本年度も継続し、「さわれるレプリカ」と「さわって読む図録」の制作を行った。
課題・改善案	「さわれるレプリカ」作りを継続し、館内外での活用形態のバリエーションを増やして、利用促進をはかる。

B. 利用者に対する接遇は適切か。接遇の向上がみられたか。(57)

平成28年度目標	利用者に対する接遇向上のための研修を行う。
自己評価	県教委作成の「接遇マナー」にもとづいて、利用者へ接遇した。
課題・改善案	駐車場の料金体系や近隣博物館施設との連携(入館料割引)等に関する検討が必要である。

8. 財源

博物館長による所見	予算は現状を下まわらないよう努力すべき。文化庁補助金を継続的に得ているのはよいことだが、ほかに科研、民間補助金のなども可能であれば活用できればよい。
評価部会による所見	学芸員が研究職であることを活かして、調査・研究のための外部資金(科学研究費補助金など)が導入できる体制を整備しておくべきであろう。

①予算の確保

A. 入館料収入・当初計画に対する実際の収入達成率。(58)

平成28年度目標	歳入6,439千円(当初見込)。当初見込額に達するようにつとめる。
自己評価	歳入7,014千円(決算額)、達成率108.9%(27年度72.2%)
課題・改善案	当初見込額に達するようにつとめる。

B. その他の収入の確保について。(59)

平成28年度目標	県一般財源50,834千円(当初見込)。必要な財源の確保につとめる。
自己評価	県一般財源50,179千円(決算額)
課題・改善案	博物館の使命を果たすために必要な財源の確保につとめる。

C. 外部助成金等を獲得しているか。(60)

平成28年度目標	文化庁補助金等の外部助成金を獲得する。
自己評価	文化庁平成28年度地域の核となる美術館・歴史博物館創造活動支援事業: 交付額8,696,112円
課題・改善案	引き続き、文化庁からの助成金を中心に、交付金・外部助成金等の獲得につとめる。